

Visual approximation of continued fraction

日本大学大学院 理工学研究科 博士前期課程 杉本 和希
日本大学 理工学部 利根川 聡・鷺尾 夕紀子・平田 典子
日本大学 生産工学部 川島 誠

TeX による教材作成セミナー
2021 年 3 月 6 日

Contents

本講演では無理数 $\omega \in \mathbb{R} \setminus \mathbb{Q}$ の連分数展開を考える.

- ▶ 連分数の概要
- ▶ Dirichlet の定理 • Roth の定理
- ▶ Legendre の定理 • Vahlen の定理
- ▶ 部分商について
- ▶ Riemann zeta 関数 $\zeta(2) = \frac{\pi^2}{6} \notin \mathbb{Q}$ の連分数展開
- ▶ R. Apéry による $\zeta(3) \notin \mathbb{Q}$ の連分数展開
- ▶ Ford circle by GeoGebra による連分数の表示
- ▶ $\zeta(5) \notin \mathbb{Q}$??? (未解決) の連分数展開

連分数の概要

連分数を用いて無理数を有理数で近似しよう。

定義 [n 次近似分数]

$\omega \in \mathbb{R} \setminus \mathbb{Q}$ とする。 $a_0 = [\omega] \in \mathbb{Z}$, $0 < a_1, a_2, \dots, a_{n-1} \in \mathbb{Z}$ に対し

$$\omega = a_0 + \frac{1}{a_1 + \frac{1}{a_2 + \frac{1}{\ddots + \frac{1}{a_{n-1} + \frac{1}{\omega_n}}}}}$$

と表される。この式を ω の連分数展開と言う。連分数展開を a_n で止めて得られる有理数を $\frac{p_n}{q_n} := [a_0, a_1, \dots, a_{n-1}, a_n] \in \mathbb{Q}$ ($p_n, q_n \in \mathbb{Z}$, $\gcd(p_n, q_n) = 1$) と書き, n 次近似分数, 各 a_k を部分商という。

$\frac{p_n}{q_n} = \frac{a_n p_{n-1} + p_{n-2}}{a_n q_{n-1} + q_{n-2}}$ 及び $p_{n-1} q_n - q_{n-1} p_n = (-1)^n$ が成立する。

Dirichlet の定理

Dirichlet の定理

$\omega \in \mathbb{R} \setminus \mathbb{Q}$ とする. このとき

$$\left| \omega - \frac{p}{q} \right| < \frac{1}{q^2}$$

を満たす $\frac{p}{q} \in \mathbb{Q}$ ($p, q \in \mathbb{Z}, q > 0, \gcd(p, q) = 1$) は無限個存在する.

つまり, 無理数は有理数でよく近似できる. 以下 $\overline{\mathbb{Q}}$ を代数的数 (有理数係数一変数多項式の根) 全体のなす体とする.

Roth の定理

$\omega \in \overline{\mathbb{Q}} \setminus \mathbb{Q}$ 即ち代数的無理数とする. 任意の $\varepsilon > 0$ に対して

$$\left| \omega - \frac{p}{q} \right| < \frac{1}{q^{2+\varepsilon}}$$

を満たす $\frac{p}{q} \in \mathbb{Q}$ ($p, q \in \mathbb{Z}, q > 0, \gcd(p, q) = 1$) は有限個に限る.

Legendre の定理

連分数展開を途中で止めた近似分数は、 ω をよく近似する。

Legendre の定理

$\omega \in \mathbb{R} \setminus \mathbb{Q}$, p, q を互いに素な整数 ($q > 0$) , さらに,

$$\left| \omega - \frac{p}{q} \right| < \frac{1}{2q^2}$$

であるとする。このとき、 $\frac{p}{q}$ は必ず ω の近似分数になる。

Vahlen の定理

$\omega \in \mathbb{R} \setminus \mathbb{Q}$ に対して $\frac{p_{n-1}}{q_{n-1}}, \frac{p_n}{q_n}$ を連続した ω の近似分数とすると

2 個の近似分数のうち一方は必ず下記を満たす：

$$\left| \omega - \frac{p}{q} \right| < \frac{1}{2q^2}$$

部分商

$K(\omega) = \sup_{n \geq 1} a_n$ とおく.

$K(\omega) < \infty$ のとき, 部分商が有界であるといい

$K(\omega) = \infty$ のとき部分商が非有界という.

例えば, 部分商が周期的ならば, 有界である.

事実

ω の部分商は周期的 $\iff \omega$ は 2 次無理数 (\mathbb{Q} 係数 2 次方程式の根)

Conjecture

3 次以上の実代数的無理数の部分商 a_n は必ず非有界であろう

(3 次以上の代数的無理数である実数で, 部分商が非有界な例はまだ知られていません. 一方, 部分商が有界な超越数の例は知られています).

無理数の判定条件

次の条件は全て同値.

- ▶ $\theta \notin \mathbb{Q}$.
- ▶ $\forall \varepsilon > 0$ に対し $\frac{p}{q} \in \mathbb{Q}$ が存在して

$$0 < \left| \theta - \frac{p}{q} \right| < \frac{\varepsilon}{q} \text{ が成立.}$$

- ▶ 不等式

$$0 < \left| \theta - \frac{p}{q} \right| < \frac{1}{q^2}$$

を満たす無限個の $\frac{p}{q} \in \mathbb{Q}$ が存在する.

Ford Circle

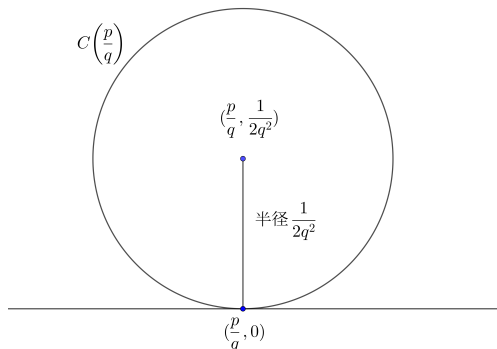
定義 [Ford Circle]

$p \in \mathbb{Z}$ と $0 < q \in \mathbb{Z}$ は互いに素であるとする。

平面において中心 $\left(\frac{p}{q}, \frac{1}{2q^2}\right)$, 半径 $\frac{1}{2q^2}$

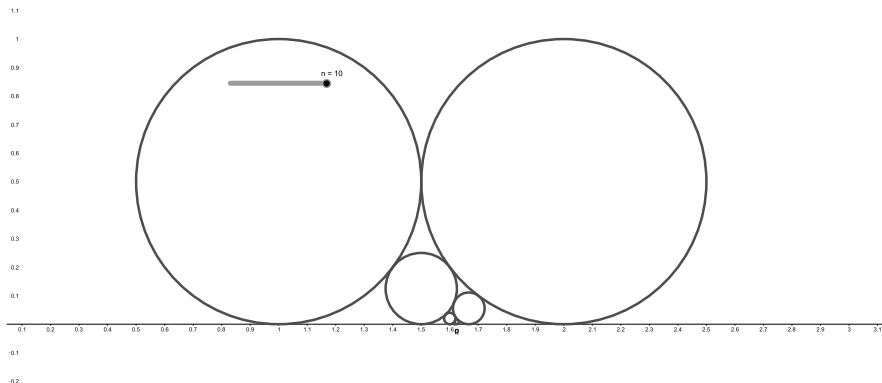
の円を Ford の円と言い, $C\left(\frac{p}{q}\right)$ で表す。

- ▶ 中心の y 座標の値と半径の長さが等しいので, Ford の円と x 軸は接する。



Ford Circle by GeoGebra

- ▶ ω の連分数展開の近似分数列に対応する Ford の円を並べる.
- ▶ 2円 $C(\frac{p}{q})$ と $C(\frac{r}{s})$ が外接 $\iff ps - qr = \pm 1$.
- ▶ 近似分数 $\frac{p_{n-1}}{q_{n-1}}, \frac{p_n}{q_n}$ は $p_{n-1}q_n - q_{n-1}p_n = (-1)^n$ を満たすので $n-1$ 次と n 次の近似分数の Ford の円は外接.



$\zeta(2)$ の連分数展開

Riemann zeta 関数 $\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s}$ を考える ($s > 1$).

Table: $\zeta(2)$ の近似分数表

n	p_n	q_n	$\frac{p_n}{q_n}$
0	1	1	1
1	2	1	2
2	3	2	$\frac{3}{2}$
3	5	3	$\frac{5}{3}$
4	23	14	$\frac{23}{14}$
5	51	31	$\frac{51}{31}$
6	227	138	$\frac{227}{138}$
7	1640	997	$\frac{1640}{997}$
8	1867	1135	$\frac{1867}{1135}$
9	9108	5537	$\frac{9108}{5537}$

$\zeta(2)$ の Irregular 連分数展開

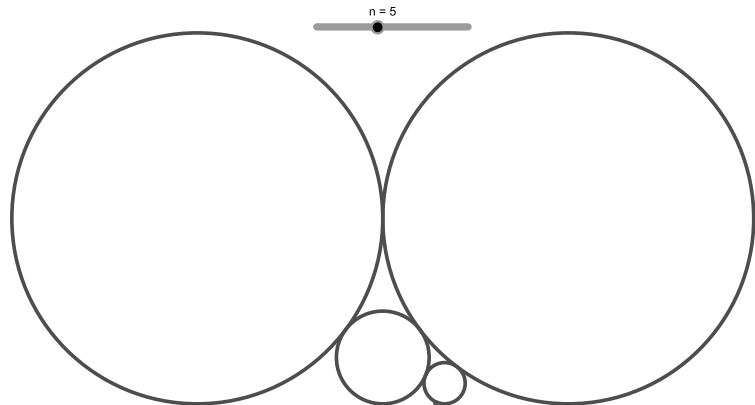
Irregular 連分数 (分子が 1 とは限らないもの) で展開すると

$$\zeta(2) = \frac{5}{3 + \frac{1^4}{P(1) + \frac{2^4}{\ddots \frac{P(n) + \frac{n^4}{\ddots}}}}}$$

ただし $P(n) = 11n^2 + 11n + 3$.

この多項式は連分数の関数版である Hermite-Padé 近似と呼ばれるものによって求められる。

$\zeta(2)$ の連分数 by Ford Circle



$\zeta(3)$ の連分数展開

Table: $\zeta(3)$ の近似分数表

n	p_n	q_n	$\frac{p_n}{q_n}$
0	1	1	1
1	5	4	$\frac{5}{4}$
2	6	5	$\frac{6}{5}$
3	113	94	$\frac{113}{94}$
4	119	99	$\frac{119}{99}$
5	232	193	$\frac{232}{193}$
6	351	292	$\frac{351}{292}$
7	1636	1361	$\frac{1636}{1361}$
8	1987	1653	$\frac{1987}{1653}$
9	19519	16238	$\frac{19519}{16238}$

$\zeta(3)$ の Irregular 連分数展開

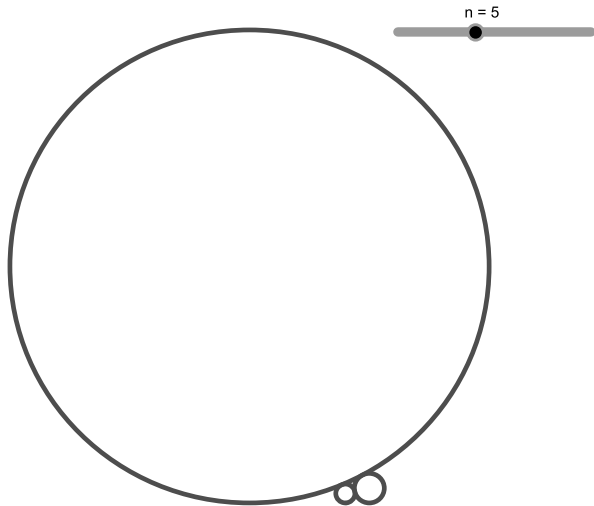
Irregular 連分数 (分子が 1 とは限らないもの) で展開すると

$$\zeta(3) = \frac{6}{5 + \frac{-1^6}{Q(1) + \frac{-2^6}{\ddots \frac{-n^6}{Q(n) + \ddots}}}}$$

ただし $Q(n) = (2n + 1)(17n^2 + 17n + 5)$.

この多項式は連分数の関数版である Hermite-Padé 近似と呼ばれるものによって求められる.

$\zeta(3)$ の連分数 by Ford Circle

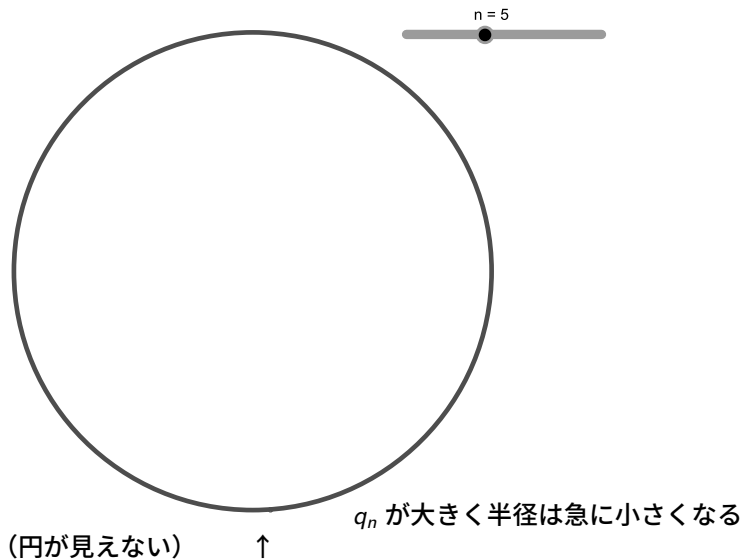


$\zeta(5)$ の連分数展開

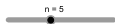
Table: $\zeta(5)$ の近似分数表

n	p_n	q_n	$\frac{p_n}{q_n}$
0	1	1	1
1	28	27	$\frac{28}{27}$
2	337	325	$\frac{337}{325}$
3	365	352	$\frac{365}{352}$
4	702	677	$\frac{702}{677}$
5	10895	10507	$\frac{10895}{10507}$
6	11597	11184	$\frac{11597}{11184}$
7	68880	66427	$\frac{68880}{66427}$
8	80477	77611	$\frac{80477}{77611}$
9	229834	221649	$\frac{229834}{221649}$

$\zeta(5)$ の連分数 by Ford Circle



$\zeta(5)$ の連分数 by Zoomed Ford Circle



ここに次の円 ↑

ζ 関数の書き換え

▶ $\zeta(3) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^3}$ のかわりに、交代級数 $\zeta(3) = \frac{5}{2} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{n^3 \cdot \binom{2n}{n}}$

を採用すると速く収束し、無理数性の証明に有用 (R. Apéry).

▶ ちなみに $\zeta(2) = 3 \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2 \cdot \binom{2n}{n}}$.

▶ $\zeta(5)$ について、例えば $n \in \mathbb{N}, s \in 2\mathbb{N} + 1$ に対し

$$R_n(t) := \frac{2^{6n} n!^{s-5} \prod_{j=0}^{6n} (t - n + \frac{1}{2}j)}{\prod_{j=0}^n (t + j)^{s+1}}, \quad r_n = \sum_{t=1}^{\infty} R_n(t)$$

と定めると、各 n に対し $r_n \in \mathbb{Q} + \mathbb{Q}\zeta(3) + \mathbb{Q}\zeta(5) + \cdots + \mathbb{Q}\zeta(s)$

▶ 事実 $\zeta(3) \notin \mathbb{Q}$.

▶ 予想 $\forall s \in 2\mathbb{N} + 1$ に対し、 $\zeta(5), \zeta(7), \dots, \zeta(s)$ はすべて無理数.

▶ 予想 $\forall s \in 2\mathbb{N} + 1$ に対し、 $\zeta(s)$ も $\frac{\zeta(s)}{\pi^s}$ もすべて無理数.

